

江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)にかかるパブリックコメントの結果について

1 意見の募集結果

募集期間	平成27年9月16日～平成27年10月15日
提出者数	6人
提出件数	35件

2 意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

3 寄せられたご意見

No.	内 容	意見の 反映状況
1	4つの基本目標については、江別市の現状と将来を考えるとき時宜を得たものであり、第6次総合計画と未来づくりビジョンとの整合性に配慮されているので、国の指示が背景にあっても市としても市民としても積極的に推進すべき戦略である。(P1～P5→最終案P3～7)	B
2	基本的考え方の2江別市における人口減少と地域経済の縮小の克服について数字の羅列中心では、市民への危機感の訴求性に欠ける。市民の関心を高める記述を追加する必要がある。(P1→最終案P3)	B
3	地域資源や地域特性を生かした取り組みについて札幌市に隣接していることの優位性だけでなく、地域資源や知的資源は、全国・海外をもめざす優位性を有する。積極的にアピールすることで政策、戦略展開の効果が大きくなる。(P2→最終案P4)現状をよく見ることも重要だが、この5年間でできる取り組みを発展的に考えようでないか。	B
4	総合戦略策定後における重要業績評価指標の設定、検証は重要ですが、検証にあたる「創生有識者会議」の構成が団体からの推薦者で構成することは理解できません。市民との協働の取り組みを掲げながら検証に市民参加ができないシステムは納得できない。江別未来づくりビジョンの検証は公募市民参加の外部評価委員によって行われているので、その整合性からもこのパブリックコメントに参加しているような有意の市民が検証に参加できるシステムが必要である。(P2及びP3→最終案P4及び5)なお、自治会が市民の意見をすべて代表しているとの認識は誤りで、自治会代表が検証に入れば市民の意向がすべてわかるわけではない。	C
5	「創生に向けた政策5原則」国の政策5原則に従うあまり、江別の個性がわからない。()内でのキャッチフレーズ江別ではこうするという市民に訴えるものが必要である。(P3→最終案P5)	C
6	江別市の人口推移、人口ビジョンからの単純な抜粋、見通しだけでなく、人口ビジョンの将来人口シミュレーション(人口ビジョン83ページ)もここに引用し、総合戦略の展開によって2060年の人口に25千人の差があることを示すことで戦略の重要性の市民理解が促進される。(P6→最終案P8) 5年後の「江別市の姿」(P33→最終案P35)と重なる部分あっても、市民の理解を深めるために必要である。	C
7	「しごとをつくり、安心して働けるようにする」の課題対応ではアンケートの、江別市の大学生に選ばれる企業と仕事だけでなく、大学生が働きたくなるような企業の誘致と育成も考えるべきである。(P8→最終案P10)	A
8	「時代にあった地域づくり…」の課題への対応の中ではコンパクトなまちづくりとともに、住み替え需要の掘り起し、高齢者のいきいきと自立した生活のための施設の新規立地と拡充を考える必要がある。	B

No.	内 容	意見の 反映状況
9	「しごとをつくり、安心して働けるようにする」の数値目標が食関連産業のみの新增設数だけになっているが、ほかの業種の可能性も含めたものにすべきです。しごとづくりには、物流、環境、医療、介護など幅広い産業の新增設を戦略として考えるべきである。(P13→最終案P15)	B
10	江別経済ネットワーク参加者数の重要業績評価指標の目標値、意欲はわかるが、高すぎるのではないか。毎年基準値の倍近い参加は疑問。(P14→最終案P16)	D
11	大学・研究機関との共同研究の推進の重要業績評価指標がフードコンプレックスの新アイテム開発取り組み数と情報大学の臨床試験ボランティア登録数だけに絞られているが、他にも共同研究があると考えられ調査不足である。企業、大学、研究機関に照会して充実させることが必要である。(P15→最終案P17)	C
12	付加価値の高い新商品開発、販路拡大等の支援の6次産業化によるものその他農総商工連携、共同研究を位置づけることが必要である。なお、6次産業化とは一次産業が内部で二次・三次産業の加工流通などを取り込んでいくもので商工連携とは異なる。(P15・P16→最終案P17・18)	C
13	潜在労働力の掘り起こしは女性と障害者に限らず、高齢者の活用にも目を向けるべきである。(P17→最終案P19)	C
14	「えべつ 新しい人の流れをつくる」の主要観光施設の利用者数の目標値が過大でないか。目標値のための政策と手段を具体的に示すものでなければ説得力がない。(P19→最終案P21) 地域資源の観光への有効活用、野幌森林公園、道立運動公園、石狩川景観などを活用した誘客数の増加を政策とし位置づけることを主要観光施設の利用者数の目標値到達と関連して考える必要がある。	C
15	江別市の情報発信力が高いと思う市民割合の目標値意欲はわかるが50パーセントになるのは不可能ではないか。画期的な政策や戦略が示せなければ引き下げる必要がある。	D
16	「若い世代の結婚・出産・子育てを支援する」の子育て環境が充実していると思う市民割合の目標値60パーセントは過大で、見直すべきでないか。市民アンケートでは支援策が充実しているが0.4%、仕事子育てを両立できる職場環境にあるが1.1%、この落差を考慮しなければならない。(人口ビジョンP63)	D
17	多世代が交流する子どもの遊び場の充実の「子育て広場」と「あそびのひろば」の違いは市民がわからない注記が必要である。子育て広場の利用者数は増えないなかで何を充実するのか説明が必要である。(P27→最終案P29)	C
18	「時代にあった地域づくり・・・」のさまざまなライフスタイルに対応した駅周辺の利便性の向上が野幌駅と江別駅を対象にした政策展開になっているが、大麻駅周辺について欠落している。大麻駅周辺での政策展開を加えるべきである。(P29→最終案P31)「人口ビジョンの結果から現状と課題」生活の利便性の向上における江別・野幌・大麻を基点とし駅周辺を都市活動の拠点と位置づけコンパクトなまちづくりを行う(P12→最終案P14)の課題への対応と矛盾する。	A
19	協働に取り組む組織づくりの業績評価指標の協議会参加団体数は適当でない。4で指摘したように業績の評価には市民が参加するものでなければならない。協働の客体が既存の団体だけではなく、市民であることから再考を要する。(P32→最終案P34) 大学は知的資源の活用だけでなく学生を含めた協働の客体として考える必要がある。(P32→最終案P34)	C
20	「5年後の江別市の姿」計算値の羅列と説明だけでなく、具体的な政策の展開から得られる姿として市民理解が得られるよう記述の工夫が必要である。(P33→最終案P35)	C
21	「基本目標ごとの5年後の江別市の姿」のこの総合戦略の最大目標であるはずの基本目標①しごとをつくり、安心して働けるようにする説明が他の三つの基本目標に比べて抽象的である。もっとも重要な基本目標であることから丁寧な説明が求められる。(P34→最終案P36)	C
22	人口ビジョン、総合戦略ともに市民説明があり、市民対話があることが本来のかたちである。スケジュール的な制約からパブリックコメントもやむを得ないが、従来のパブリックコメントのように機械的・事務的に区分して都合のいい評価で、問答無用で市の見解を示すだけで、既定方針を追認するだけのパブリックコメントであってはならない。市民参加条例施行の最初のパブリックコメントであることから、真剣に考え意見を出している市民の心情にも配慮した真摯の対応を強く願うものである。	E

No.	内 容	意見の 反映状況
23	<p>現在、江別に住んでいるシニア世代の方々、これからシニア世代に突入する方々が江別で、元気に、不安なく安心して、生活していける様な、地域づくりをして欲しいため考えてみました。</p> <p>60歳以上の方が入居条件の2～3階建の格安集合住宅を作る。 (民間のサ高住は部屋が狭すぎるのに料金が高すぎる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江別は冬、雪が多く一軒屋に住んでいると除排雪・屋根の雪おろし等困難になり、業者に依頼すると高額な料金がかかるため、資金面の不安も無くする。 ・江別地区・野幌地区・大麻地区それぞれに少なくとも1ヶ所建つ事が理想。 ・アパート等に入居するにしても「貸ししぶり」にあう事の不安を取り除くため。 	C
24	<p>シニアを支える事業所を誘致する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌には「札幌司法書士会リーガルサポート」、「一般社団法人シニアライフサポート協会」があり、シニアを支えてくれる団体があるので、江別に誘致する。 ・市の福祉課・介護課等と連携をとってもらおう。 	D
25	<p>ドクターの「診療拒否」にあう事が無い様、「認知症」に詳しいドクターが居る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「認知症」(若年も含め)の方々が、優先的に受診・入院出来る病院を誘致する。 ・内科・外科・整形外科・精神神経科・眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・婦人科・脳神経外科・歯科・皮膚科・・・ヶ所に。 ・「認知症」でも人間ですから、色々な病気になります。回りの人々の理解を得られず、普通に受診することが困難な場合があるため、「認知症」になったご本人そして付き添う家族が不安なく行ける病院を作る。 ・診察→入院となる事もあるので、外来と入院病棟がそろっていることが理想。 <p>ほぼ無理な事と思いましたが書きました。実際に私の母が「診察拒否」にあいました。これからは、「認知症」がどんどん増えると言われていきますので、このような病院が必要だと思います。</p>	D
26	<p>移動手段に対する不安を無くするために、公共施設・病院・大型商業施設・スーパー等を結ぶバスを走らせてもらえると、外出することが多くなり良いと思う。外出する事は、元気になる事です。</p>	C
27	<p>分析の方向性と深度が十分ではないのではないかという疑念</p> <p>添付資料を拝見し、江別市に関する内向きの分析は細部に及んでいるのですが、外向きの分析(特に同一経済圏である道央地域各自治体の分析や施策実施における競合先等)が少ないことが気になります。</p> <p>これは、「企業の誘致」「住民の定着」「地場産業振興」等、この戦略個々の施策に直接影響を与える存在が札幌市を初めとした周辺自治体の特性及び動向であり、各々の特性を十分に見極め、競合を避けつつ勝ち目を見出さなければ十分な成果は得られないのではないのでしょうか。</p> <p>また、今後道央圏の広域連携を模索するならば道央圏内で競合しても意味が無いことからより分析を深化することにより、その中における江別市の地位役割が明らかになれば、自ずと各施策がより具体化されるのではないのでしょうか。</p>	C
28	<p>潜在労働力の掘り起し(p17)について</p> <p>潜在労働力に関し「女性」「障害者」を特出ししているが、今後一番大きな潜在労働力である「高齢者」や働く意思があるが機会に恵まれない「生活保護家庭」等が出てきておりません。今後の人口構成の推移からも高齢者の労働環境の創出は重要ではありませんか。</p>	C
29	<p>観光基盤の整備による人材確保(p19→最終案P21)について</p> <p>観光とその地域で生活することは違うのではないのでしょうか。観光を強化しても近郊に生活に適した自治体があれば其方に定住します。</p> <p>よって、一時的な観光ではなく、その地域に居てこそ旨味がある特性を醸成することが必要ではないのでしょうか。</p>	D
30	<p>江別市独自の「地域包括ケアシステム」の構築(p31→最終案P33)について</p> <p>これに限った訳ではないのですが「具体的な内容」と、それを達成するための「進捗管理表」が無いため、「いつまで」「何を」「どうするか」がイメージとして伝わってきません。</p>	D

No.	内 容	意見の 反映状況
31	<p>パブリックコメント…とかいうものとは、ほど遠い、簡単で雑文ですが、江別に暮らして30年、その間息子たちも独立し今は、道外にいますが、大変住みやすい街だと思っているおばちゃんより一言です。</p> <p>実現するための「資金」の部分がどうなるのか？と思いました。(このような案件の書式は記載しないのが、通常の形なのかもしれませんが、) 2014年12月に閣議決定されたことを、踏まえてということは、補助金・交付金等があるものなのですか？</p>	E
32	補助金は補助金として、江別市独自で資金調達＝「稼ぐ力」をつけることが重要では思います。	E
33	岩手県紫波町の「オーガルプロジェクト」や東洋大学で「公民連携選考学科」という学科ができたという話を聞き、公民連携して オール江別で検討するべき時期にきていると思いました。	B
34	<p>この数年のえべつ市の子育て支援事業の拡大については、子どもの遊び場(ぼこあぼこ等)、若い世代の子育てに対する意識を育てる(中学生…第2中学校交流等)など、素晴らしい取り組みがされていることに、敬意を表します。</p> <p>一方、市民アンケートによる、予定子ども数が理想子ども数より少ない理由(女性)では、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が断頭の61.8%という結果です。せめて、乳幼児期の子ども医療費の無料化を計画に組み込んで下さい。若い子育て世代は、雇用が不安定な世代でもあります。在宅育児をしている主婦の意見交換で全員が「いずれ働きたい」と希望している結果が出ているように、経済的にきりきりの生活です。次に幼稚園、保育園卒園後、低学年学童期に安心して通える学童保育の充実を具体的な枠(定員)と保育料の低廉化を組み込んで下さい。近年、全国で子どもたちの不幸な事件、事故が増加しています。子どもたちを守る安心の街づくり、えべつを願っています。</p>	C
35	<p>国の指示に従い、江別市でも「人口減少と地方創生に一体的に取り組むことが」必要ということで、今回「江別市まち・しごと創生総合戦略(案)」を作られたようですが、魂が入っているようには感じられません。</p> <p>第一に、誰がこの戦略の責任者なのでしょうか。市長ですか、市役所の企画部長ですか、市議員でしょうか。</p> <p>まず、責任者を決めることが第一です。そして、責任をとってもらう。そのためには権限を与えることも大切です。仕事というものは、数値目標と何時までという期限が必要です。</p> <p>期限は5年後、平成31年3月。数値目標を明記して下さい。計画を作った人は、仮に実現できなくても、何の責任も取らなくてもいいという計画であれば、意味はないと思います。</p> <p>次に、計画を達成するには、プロセスが必要です。プロセスの数値もありません。単なる作文だといわれても、しょうがない計画に、市民の意見を求めるのはおかしいと思います。</p> <p>体系図を見ると、産業の活性化、連携、雇用の創出とあります。</p> <p>このことを実現する責任者は、誰が適任なのでしょう。そして実現のためのプロセスを、責任者が中心になって、部下と一緒に計画・実行する。そのためのメンバーはどなたが適任なのでしょう。</p> <p>市役所、起業家、農家、一般市民等の中から、計画段階から参加していただいて、計画時にはその人たちが、参加して計画を作るべきだと思います。そして、計画達成の責任をとれるようにすべきです。</p> <p>大学にも期待しています。観光も振興する計画です。子育て、協働。言葉だけが先行し、具体的な責任者の名前や活動計画がないように思われます。</p> <p>私だけが理解できていないのであればいいのですが。</p> <p>責任者、達成目標値、実行計画、実行チーム。名前と数値と期限を決めることが絶対必要だと思います。</p>	D

※意見の内容は原文のまま記載しています。ただし、頁数が記載されているものは、最終案の頁数を追記しています。